

平成30年度

第2回草津市子ども・子育て会議 会議録

■日時：

平成30年8月29日（水）14時～16時

■場所：

アミカホール 2階 研修室

■出席委員：

神部委員長、奈良副委員長、井上委員、國松委員、柴田委員、高尾委員、  
高木委員、田中委員、辻委員、樋笠委員、八幡委員、山下委員、横江委員

■事務局：

田中子ども家庭部長、山本子ども家庭部副部長、岩城子ども子育て推進課長、  
門田子ども子育て推進課係長、河合子ども子育て推進課主査、子ども家庭課、  
幼児課、子育て相談センター、幼児施設課、発達支援センター

## 1. 開会

---

【田中子ども家庭部長】

皆さん、こんにちは。子ども家庭部の田中でございます。

平成30年度第2回の草津市子ども・子育て会議の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、日ごろから本市の児童福祉行政を初め、市政各般にわたりまして御支援と御協力をいただいておりますことに対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

また、今回も前回に引き続きまして大変お暑い中、御参集をいただきましてまことにありがとうございます。

本日の会議におきましては、子ども・子育て支援事業計画の改定に必要不可欠な市民の皆様に対するニーズ調査の調査票の案について皆様に御審議をお願いいたすところでございます。

ところで、子ども・子育て支援事業計画における各施策のトップに位置付けております保育認定に関しましては、認可保育所の待機児童の状況でございますけれども、おかげさまで4月1日現在は待機児童はゼロとなったところではございますが、9月1日に向けての入所での入所調整におきましては、124名の待機となっております、前年と比べますと1カ月早い、いいペースで進んでいるところでございます。また今後も3月に向けて、ますます待機の児童が増えることが予想されますことから、現在も私立の保育所さんを中心に施設整備を進めていただいているところでございます。

国の社会保障人口問題研究所の調査によりますと、草津市は2015年から2045年までに人口が約6%増加するという県内で一番の人口増加率が推計されております。

少子化が大きく取りざたされている今日の我が国において、人口が増えるということは大変喜ばしいことではございますけれども、逆に言えば人口増に応じた子ども・子育て支援事業の整備がますます必要になってくるということでございます。

本日の御審議を通してよりよいニーズ調査が実施でき、制度の高い子ども・子育て支援事業計画の改定を進めてまいりたいというふうに考えておりますので、委員の皆様には忌憚のない御意見を頂戴いたしたくお願いを申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしく願いをいたします。

## 2. 議事

---

## (1) 草津市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査について

### 【委員長】

それでは早速、まず1つ目の議事である草津市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査案について審議をしていきたいと思います。子ども・子育て支援事業計画とか、こういう形で事前に市民に対してニーズ調査を行うとか、これは定められているわけですね。そういうことで市民においてニーズ調査案を策定いたしましたので、まずはそのことについて事務局さんのほうから御説明をお願いいたします。

### 【事務局】

<資料1-1について説明>

### 【委員長】

ありがとうございます。なかなか目で追うのが大変ですけども、事前に見ていただいている方もおられるというふうに思いますので、まずは前半部分、この部分のデータに関してもし何か御質問、あるいは御意見ございましたらよろしく願いいたします。

何かございますか。こういう結果かということでざっと御覧いただいていると思いますが、もし何もないようでしたらざっと行って、もう一度全体を通して何かあったらお聞きしたいというふうに思います。ちょっと全体、後半行きましょうか。

### 【事務局】

<資料1-2について説明>

### 【委員長】

ありがとうございます。ニーズ調査をしてこういう形で結果が出てくるんだよというようなところで、なかなか今ぱっと聞いてこれでこれがどうなんだっていうのは難しいとは思いますが、もし何か後半の部分で御質問ありましたら受けたいと思いたいがいかでしょうか。

5年前はこうだったということで、これからニーズ調査をやりながらデータでこういうグラフが出てきて、こうした傾向を細かに分析しながら次回の計画を立てていくんだというあたりで、まずは御理解いただいたらいいのかな。

よろしいですか、皆さん。大体、前はこういう結果が出てきたと、こういう結果に基づいて今の計画というものができ上がっていると。今回も同じような手順で、こうした分析をしながらやっていくんだということで、またゆっくりと今御説明があった内容を見ていただけたらいいんじゃないかというふうに思います。

もしなければ、要は今日はその具体的なアンケート調査の中身のほうが重要ですので、この部分についてはこれぐらいにしておきたいというふうに思います。

それでは、次に具体的なニーズ調査というものの内容に入っていくわけですが、これもまずは事務局さんのほうから御説明ということになるんですかね、お願いします。

#### 【事務局】

<資料1-3について説明>

#### 【委員長】

ありがとうございます。さて、ここからが本番ということですが、事前にまず中身を皆さん見ていただいていると思いますけども、まず僕らが答える立場からいってこれのどこが見やすくどこが見にくいのか、回収率を前回よりも上げる、前回は48.9ですが、前は先ほど事務局からあったように非常に関心度が高い中での48.9

ということで、この48.9というのを上げていく上でこの調査票はどうですかという視点。社会調査っていうのは40%を下回っちゃうとかなり信憑性が低くなってしまうので、最低でも4割っていうところは死守しなきゃいけないんですが、僕の中で見てちょっといろいろ言いたいこともいっぱいあるんですが、まずはちょっと委員の皆さんのほうからの御感想あるいは御意見、そういったレイアウトの面でも結構ですし、内容を見ていただいてそれぞれのお立場からもっとこの部分の質問というのをに入れてよっていうそういった御意見もウエルカムで、出していただいたら。

印がついているところは国の必須項目の部分なので、なかなかその項をいじることはできないけれども、ついてない部分はいわゆる草津市が独自に入れようとしてる設問ですので、それとあわせて取捨選択ということは可能なので、そういうことも含めて自由にまず、自分が答えるっていう気になっていろいろと御意見をいただけたら非常に参考になるんじゃないかと思います。さて、いかがでしょうか。

#### 【A 委員】

全体的な内容の前に、いつもこれを書かせてもらうときに思うことが、書いた後にどのように評価が集計されてどのように反映されているのかっていうのが意外とわかりづらいです。自分が書いたことがどのように集計されているかというのは、どこかで公表されているんですか。

#### 【事務局】

このニーズ調査の結果の内容は、先ほど資料1-1でもありましたとおり、子ども・子育て会議で調査項目の結果の御報告をさせていただきまして、こちらの資料としてホームページなどで公表しているものでございます。

ただ、おっしゃったように実際1,500人ないし3,000人までの方に毎年結果をお送りして、実際に全ての方が子ども・子育て会議のホームページを見て確認で

きるわけではないので、御指摘の点については参考にさせていただいて対応をさせていただきます。

**【A 委員】**

私が見逃しているのか、どこかにいつもそういうワンフレーズみたいなのを書いているんですかね。子ども手当のときにも毎年簡単な調査に入っているんですけど、あれとかもどこかで公表していますってということが書かれているんですか。

**【事務局】**

今御指摘がございましたのは、資料1-1の補足資料の右下に、本日配らせていただきましたこのカラフルな資料の右下に、子育てしやすいまちづくりアンケート、これは先ほど少しだけ触れましたけども実際、毎年今言ったように児童手当のところにアンケートを同封させていただいて実施させていただいてるアンケートのことを言っているということですね。

**【A 委員】**

はい。

**【事務局】**

子育てしやすいまちづくりアンケートの部分については、実際には先ほど少し結果のところで触れました草津市は、子育てしやすいまちですかという部分の数字だけは草津市の計画の重要指標になっていて、確認できるかというところの部分は確認できるのですが、御指摘にあったように実際にお忙しい、あるいは共働きであったり家事やお仕事で忙しい皆様が、気安くアクセスできる場所にアンケート結果があるかという御意見については対応したいと思っております。

**【B 委員】**

A 委員がおっしゃるのは、アンケートを答える段階でどこで発表されるのかなって  
いうのがわかったほうがいい。

**【A 委員】**

5年に一回かもしれないんですけど結構な量なんですよね、これ。仕事されてるお  
母さんがこれを真剣に答えようと思うと、まあまあな時間を割かないといけないと思  
うんです。その中で、丁寧なお母さんで一生懸命書かれた方がおられたんですね。で  
も一生懸命書いたけれどもこれって一体、書いたからってこれに対して答えてくれる  
わけでもないし、どうやったんやろな5年前みたいなことを言っておられたので、や  
っぱり書いたほうとしては自分の案がどのように通るかとか、どこに反映されている  
のかっていうのがわかるほうが、もっと書く意欲があるかなと思うんですけども、そ  
の希望がかなわないかもしれないけれども聞いてもらえたんだって思うことがやっぱ  
り市民とのやりとりっていうのかな、そういうコンタクトは大事かなと思うんですけ  
れども。

**【事務局】**

お答えいただいたアンケートの結果は、こういう形で公表させていただきますとか  
この計画に反映させていただきますということを、もうちょっと丁寧にアンケートの  
中に書かせていただくような形で対応を考えております。

**【A 委員】**

あと、書いていてもどこかで見られるのかなと思うとそうした方がいいと思うん  
ですけど。

**【事務局】**

書く段階でそういうことがわかれば、より書いていただけたらと思いますね。

**【委員長】**

せめて最初のこの扉のところに、この結果については市のホームページで公表させていただきますとか、最低限そういったことがあると関心のあるお母さんはそろそろって言ってホームページを見ていただいたらそこに出ているっていう、それぐらいはここに足してもいいと思いますね。

**【事務局】**

ニーズ調査の結果自体は年度末に冊子としてでき上がりますので、その時点でまた公表できますので、そういう時期に公表させていただくということを書かせていただきたいと思います。

**【A 委員】**

お願いします。

**【委員長】**

ありがとうございます。

他に何かございませんか。なかったら私のほうから言いますけども、先にどうぞどうぞ。

**【C 委員】**

書式はこのままの書式で皆さんに送られるわけですか。というのは、青の点線もし



くは実線で囲んでありますけども、これはアンケートを実施する側の価値観であって、アンケートを回答する側の価値観ではないと思うんです。国指定であろうと何であろうと、読む人は一生懸命読んで答えてくれるのに、その設問の重要度に差をつけるような形になっているのではないかなという気がするんですね。

もし受ける側が重要だと考えているんだったら、それはアンケートを実施する側がそのように思えばいいわけで、ここに書き足す必要はあるのかっていうのが一つです。

それから小さいことですが、一番最後のページに日本語としておかしいんじゃないかっていうのが返送の仕方ですね、切手を貼らずに同封の返信用封筒に入れてっというのありますけども、切手を貼らずにこの形だと、このアンケート用紙に切手を貼らずにというようにとれる。同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずにというように、それが私は正しい日本語ではないかと思うんですけども。

#### 【委員長】

なるほど、お答えいただきましょう。お願いします。

#### 【事務局】

大変、すみません。1点説明不足の点がございましたが、資料1-3の1ページ目の左手にございます青点線、国必須、青線、国選択、それ以外、国・・・というものについては、委員の皆様には御議論いただく上でわかりやすいように補足説明で書かせていただいておりますので、実際この部分の一番上の文章で問いに囲われてる青線、青点線については送る段階では消させて送らせていただいておりますので、説明不足、申し訳ございませんでした。

また御指摘いただきました日本語の問題については、当然直して送らせていただこうと思っておりますので御指摘ありがとうございます。このような問題でも、なかなか読んでしまってわかつちゃうとそのままというので、皆さんが思ったことがあつ

たら細かいことでも御意見いただけると事務局としては大変助かると思っております。

【委員長】

そういうことが大切ですね。我々が読んで回答するわけですからね。ありがとうございます。  
ざいます。

他に何か。そういういろんなお気づきのところ、なかなか事務局で自分がつくっている分には気づかないんですよ、自分はそうだと思い込んで書いているからね。人から言われてあつていうことも結構、僕自身もあるんで。

よろしいですか、じゃあ僕のほうから幾つか言わせてもらおうと、回収率を上げると言うけども果たしてこのレイアウトで、皆さんはこれが届いたときに「よっしゃ、書いてやろう」っていう気になるかどうかというお話ですよ。非常に見づらい、読みづらい、回答しづらい、なかなかこれでは果たしてどこまで回収率が上がるのかなという気はします。

枚数が増えれば増えるほど、また回収率が下がるというジレンマはあるんだけど、やっぱり一番ちょっと少なくとも気になるのが例えば13ページの間20とか、何がどれがどの選択肢なのかって、これを見てマルをつけようという気になるのかどうかそういう目で見たいのね、みんなには。ただでさえ22も選択肢がある中で、最初1、2から10までは横になっていて途中から突然縦にざっと並んで、これをちょっと視力が悪い人なんかが見たら何が何やら、まず回答しようっていう気にも多分ならないと思いますね。

できたらもう少し答える側の気持ちになってこの選択肢の並べ方、レイアウト、横に二列にならずに、だっと長くなるんだったら別にその設問というのは二行にまたがっても別に構わないわけですから、見やすいレイアウトをしていただかないと、とても僕も今小学6年生の子どもがいます。ですから僕のところにこれが届く可能性もあるわけですよ。そういう目を見たときに、とても答える気にならないなというような

ところが、結構そういう目で見てもらうといろいろと出てきたりしますので、そこをちょっとお考えいただきたい。

特に問20ともう一個なんかすごいのが、問24もそうやね。この並べ方もてんでんばらばらで雑然と選択肢が並んでいる、とても気持ちよく答えようと、少なくとも回答する側から言えないよっていう点、まずそういう目でちょっともう一回設問を、特に選択肢を見直してもらいたいってというのが1点あります。

そして、ついでに言うておけば例えば4ページの間4-2、新しくこれ入れましたというふうにおっしゃいましたが、先ほどのあれも関係あるんですが、要は説明を入れたときに一体これをどう分析して、それが一体これからの子育て支援計画のどこにどう役に立つのっていう視点で選んでもらわないと、とりあえず聞いてみましようでは聞いた後これをどう使うのよという気がするんですね。

そこを逆に言ったら、これをこう分析してこれがどうこれから生かしていきますっていうことがあればお聞かせいただいてそれで納得すればいいんだけども、別に認定こども園の利用を検討し始めたのが妊娠前なのか出産後なのかとそれを聞いて、それも分析して結局それをどうするつもりなんだというのが、僕にはちょっとわからないんです。

それよりもむしろ、前回5年前でいえばまた皆さんの後で、平成25年のときには別の設問が利用するときの目的とかその理由っていう設問が入ってたんですが、それが削られてこの4-2にすりかわっているような感じなんです。僕はそのどちらを選ぶかっていったら、施設を利用するときの目的、何でそれを利用したのっていうそっちを聞いておいたほうが、それぞれの施設とクロスしたときにそれぞれの施設の利用目的に何か特徴とか差っていうものがあれば、それをちゃんときちっと土台にしまざまなサービスとか、そういうことを考えるっていうことのほうが重要な気はするんですけども、なぜそれが消えて利用を検討し始めたのが妊娠中なのか出産なのか、1歳なのか子どもが1歳以上になってからが重要なのか。そして、これが子ども計画

の分析としてどうこれを役に立てようと思っているのか、ちょっとそこをお聞かせいただけますか。

【事務局】

御説明させていただきます。まず見づらいという御意見については、至極ごもっともだなと思っております。

ただ1点、子ども・子育て会議の時期を前後させておけばというところもあったと思うんですけども、国の指針が7月中にずっと送ると言っている中で実際は今日まで来なくて大幅な改定ができなくて、本当に国の指針が来て子育て会議をすればよかったんですけども、本当の流れとしては国の指針が来て今日にはその指針も含めた詳細を、案を出せていたようなことから前回とは書いていたと思うんですけども、順番が今日で御意見を含めて10月に改めて調査要項をさらにブラッシュアップといいますか、さらによりよいものにして出す予定ではございましたので、今いただいた意見を含めて10月に見やすくなって、あるいは大幅に変えられた案をまた確認していただきたいと思っておりますので、今出た問20、問24などについては見方を仮で表現の仕方を変えたものを10月に御確認いただければなと思っております。

その点でもう一個、問4-2についてはさまざまな理由が一つはあるんですけども、そのうちの一つで御説明させていただきますと、先ほどの問1-2の表で仕事、いつから働き出したいですかという表のところがちょっとすみません、何ページか出てこないんですがちょっと説明させていただきますと、このニーズ調査をもとに今後5年間の計画を立てるわけなんですけども、なかなかその5年後の計画って、若い世代、子どもを持つ世代の保護者様の皆さんってなかなかわからないものなんです。というのは、働きたいと思っていたけど思いのほか子どもが多くできちゃったですよとか、あるいはさっきの例にすると子どもがなかなかできなかったですよという問題があって、なかなかどの時期にどのように保護者さんが決めて、あるいは決めたとおりに動

くかというのが、前回5年前にニーズ調査したときに、将来のことを聞いたときに将来のことのお答えがなかなか得づらかったという反省点が国のほうでもあったんです。

問4-2については、どの時点で御利用の意向が決まったのかなという実績値を集めて、大体保護者の皆様がどの段階で子育て支援事業を、特定の事業を使うかの傾向をつかみたいというのが一つではございます。

**【委員長】**

だからつかんでそれをどうするんですか、それを。

**【事務局】**

申し訳ございません。今回、将来にわたってどの時期に働きたいですかとかを聞いていくわけでございますけども、その回答がどれくらい有効なのかとかをクロス集計といたしますか、この時点の回答はある程度有効性は高かったのかなとか、あるいは子どもが生まれる前過ぎたときに保育所を決めると言っていた方の回答は、実は5年後にはなかなか反映されてなかったのかなというのはわかってくるのかなというふうには思っています。

御意見を踏まえまして、先ほど削れてしまっているかもしれない問いとあわせて、次回のときにご意見を反映した案を提示させていただきます。

**【委員長】**

次回でまた変わってくる、少なくとも今の聞いた範囲では個人としてはあまり効果的な質問ではないと思います。それを聞いて例えば妊娠前に検討し始めたころが一番有効だってわかってるんだったら、みんながそのことに検討し始めるようになりますとかね、そういうことであるんだったら見る価値があるということで、そこまで考えてないわけでしょう。

余裕があればいっぱい聞けばいいと思いますけども、この余裕のない中でそれを聞いて傾向を見たから、じゃあそれに対してこういう施策を立てますって、そこまでも僕はイメージできないんです。

例えば、逆に言ったらこれを聞くぐらいだったら前のほうがよっぽど具体的な施策に結びつく設問じゃないの。目的・理由を省いてわざわざこっちを入れるっていうことが本当にこれいいのということです。今はもう時間がないので答えなくていいですけども、もう一度ちょっとこれ本当にこれが必要なのか、傾向を見るからにはその傾向を見てそれに対してどういう策を打つのかって、そこまでちゃんと見通しながら設問をつくっていかないと、単に結果がこうでしたっていうそれだけ言われたって使い道がないですから、その辺をちょっと考えてみてください。

僕ばかりしゃべってばかりであれなので、他に何かそんな感じで何かお気づきのところ、今言っておかないと次の段階じゃほぼもう確定していきますので、また何もなかったら後半僕もしゃべったりしますが、まずは皆さんのほうから何かお気づきのことをお願いします。

#### 【D 委員】

ちょっと教えていただきたいんですけど、今委員長がおっしゃったこととの関連でお尋ねするんですが、これは草津市のオリジナルなアンケート調査ではないですよ、ないですね。

#### 【事務局】

はい。そうです。

#### 【D 委員】

多分それがあるんじゃないかな。だから、今先生がおっしゃったような意味でこれ

を草津の街でやるなら現実的な問いじゃない、だからやめとこうかなというふうなふうにはいかないということやね。

**【事務局】**

今の部分は草津市オリジナルの部分。

**【D 委員】**

オリジナルの。

**【事務局】**

問4-2はすみません、うちのオリジナルです。質問自体は、4-2はオリジナルな質問で青い点線がかかっているやつ、青い実線がかかっているやつが国のアンケート調査のオリジナルなものでございます。

**【D 委員】**

なるほど。私は幼稚園の立場なんですけども、東京のある区がこれによく似たアンケート調査を出して見せてもらったことがあるんですが、そしてそれは業者が用意したようなものらしいんですけど、江戸川区とかの職員一課長か何かが一つ、アンケートを業者が用意したものに対して一つオリジナルな質問を足したらしいんですよ。それはどういう設問やったかという、いろいろと勤めのこととか保育所に対する不満とか要望とかいっぱい問いかけやってん。最後に、ほやけど本音のところではお母さんは子どもについてどういう希望を持っておられますかって聞いたらしい。本音のところをいろいろ、行政に対する要望ではなく、そんなら本音のところではかなり高いパーセンテージで、それはできたなら自分の手でそれこそ手塩にかけて育てたいというのが、一番最後の質問だけでごろっと全体的に変わったようなことが

あってびっくりしたのと、それとやはり東京都でもいろんな区があるんですが、東京のほうは軸を集中していろいろなことやいろいろあって経済的にも非常にリッチな、幼稚園にしても保育園にしても補助金が豊かなんです。そこでしたアンケート調査はかなりいい評価というか明るい評価だったみたいです。条件がいいんで、至れり尽くせりというところまで行っているかどうかはわかりませんが、いい一つの施策がなされてるところで行われるアンケート調査というのは、かなり違った結果が出るもんやなというふうな印象を持ったことがあるんです。これは意見で質問ではないんですけど、そういう要素があるなど。

僕は見せていただいて一つだけお尋ねしたいのは、この街の草津市がつくったこのアンケート調査でオリジナルというか、これだけは住民たちとしてはいい質問やと思うと心がけて問いかけいうのは何ですか。

#### 【委員長】

草津市で自信を持って提供できている質問は何だと、オリジナルのということですが。

#### 【事務局】

ちょっとなかなか完全に、御質問の趣旨に100%沿った答えではないのかもしれないのですが、先ほども御紹介いたしました草津市は子育てしやすいまちですかというアンケートについては、これは当然今回の5年ごとのアンケートでもさせていただいていますし、先ほど委員の方からありました毎年、児童手当の現況届に同封させていただいているアンケートにも記載してございます。

その結果のところ、基本的にはやはり毎年少しずつではございますけれども子育てしやすいまちだと思っていただいている方が増えていております。あるいはこれは民間の調査ですが、住みやすい街アンケートですね、草津市が上位に上がっている理由



としては子育てのサービスも上げられていることから、誇るべきかどうかは別にして草津市が子育てしやすいまちにしていくために、我々はアンケートを実施して実態を把握して計画を立てて進めていくというふうに思っています。

まだちょっとこれも趣旨とは若干違いますけども、やはりこのニーズ調査の大きなところとしては国必須事項でもございますように、実際保育所・保育園あるいは幼稚園がどれぐらい市民の皆様が必要とされておられて、これから待機児童という働けないあるいは保護者の家族の形に沿えないことがないように、必要な整備を今後させていただくためにニーズ調査を行わせていただいて、あるいは計画を立てていただくものでございますので、完全に趣旨に沿えたお答えじゃないのかもしれないのですけれどもそのように考えてございます。

#### 【D 委員】

大体わかります。

#### 【委員長】

ありがとうございます。

他に何かございますか。お願いします。

#### 【A 委員】

本当にサービスを上げていくためには、こういった細かな統計をとっていくっていうのは大切だと思うんですけども、私もやっぱりこれを書いていると淡々としていて本音っていうのがなかなか引き出してもらわない。自分の本音をもっと引き出してもらえるような、副委員長が言っておられるような草津市としての一番大切にしたい思いを引き出せるような質問内容があればいいなとは思っています。

ちょっと余談になるんですけども、ある新聞記事で待機児童に選ばれて本音とし

てほっとした、ほっとしたっていうようなお母さんの意見が載ってたんです。すごくこれ大事な意見だなと思ったのに、次の日にはもう何の記事も載ってなかったんですね。一瞬小さな記事で載っていたんです。でもね、そのほっとしたっていうところに本当のお母さんの本音というものがあるんじゃないかなと思うんです。だから、そういう本音を引き出してもらえるそういう質問が1カ所でもあると、答えた方も書き応えのあるアンケートになるのではないのでしょうか。

本当に、子どもを何を大事にして子育てをしているかみたいな内容が、きっとお母さんたちは一番書きたいことじゃないんでしょうかね。

もう一点すみません、どこの枠で小学生までって決められてるのかよくわからないんですけど、意外に子育てしてるさなかの方って欲求とか願えばっかりじゃないかなと思うんですね。案外この中学生、一段落したお母さんたちに聞いてみると昔はこうやったけどこういうことがあったほうがよかったとか、あったほうがよかったなと思ったけど、意外にこういうことで補えたよっていうような意見も聞けるそういったアンケートもあったらいいのかなと思うんですけど。

#### 【D 委員】

子どもの育ちをめぐる環境っていうのがあって、そこに近所づき合いっていうのが出てるんですよね。

先ほども草津が住みやすい街という話が出ましたけども、何をもって住みやすいと言うのか。スターグラフっていうんですかね、星型になるグラフでやると近所づき合いというのは非常に評価が低い。評価の高いものっていうたら利便性だけなんです。あと、そういう近所づき合いとか控除が非常にランクが低い。

こういうアンケートって数字できちっと出るのは、例えば待機児童の数とかいうのは数字が出るからいいんですけども、こういう設問の中に近所づき合いっていう項目があって、近所づき合いがよくないっていう答えが出たときには何か方法を考えてお

られるんですか。非常に難しいと思うんですけどね、近所づき合いは大事だと言われるけども、じゃあどうやったらよくなるのかというのがほとんど示されたことはないんですよ。

こういう設問をするんだったら、街に近所づき合いがなかったらどういうことをしましょうとか、それから控除がランクが下だったら控除もこういうのもっとふやしましょうとか、ただ単に数字で答えが出るもの以外に、そういう生活していく上で大事けども数字的に表しにくいもの、それを充実させていただけたらなど。こういうアンケートがそういうときにも役に立てればなと思います。

ということで、質問になるのか個人的な意見なのかわかりませんが、もし近所づき合いについて何か案をお持ちならお聞かせいただきたい。

#### 【委員長】

今2つの質問に合わせて、何かお答えすることがあったらお願いします。

#### 【事務局】

近所付き合いについては非常に大事だということで、子どもの子育てだけではなくてコミュニティの助成とかいろんなことで取り組んでいるところではありますけれども、ちょっとこのアンケートでそう出たからすぐこうするっていう施策というよりは、そういった数字をまず一旦、現状を確認するための調査ということなので、申し訳ないですけどもちょっと今は把握をするというところで、また今まで継続的に市で取り組んでる部分をまた展開しなければいけないかどうかっていうのは、またこれを見ながら考えさせていただきたいなと思うんですけども。

そういう視点から、他の項目についてもこういうのを聞いておいたほうが今後のためにはなるということ言うていただければ、それも含めて設問を変えさせていただきたいと思っています。

## 【委員長】

よろしいでしょうか。少なくとも、問18に関して僕はとても重要な設問だと思っ  
てて、要はだからそういった、これはほとんどソーシャルキャピタルっていう考え方  
があって、やっぱりその地域としたらネットワークっていうのがある程度ある人ほど  
そうした地域への活動っていうのが活発であったりとか、多分若いお母さんなんかは  
そういうネットワークが強いほど子育てに対して不安が少ないとか、ある程度そうい  
った仮説っていうのは検証されてるところもあって、ここで改めて草津市の状況を見  
てやっぱりこういうネットワークがある人ほど子育てに対して不安が少ないとか、楽  
しんでいるっていうそういう結果が出たならば、それが根拠になってだったらより具  
体的に草津の子育てをよくするためにそういうネットワークをどうしていくんだって  
いうことを主張していくベースになっていく設問だと思うんですね。

これとさっき僕が言った問4-2との違いがそこでね、これはだからそのベースが  
あったら具体的にそれをどうしていくんだっていうのが見えるんだけど、先ほどの  
いつから入園を考え始めましたかって言われてそれがどうなって出てきて、それがそ  
ういうふうな形で根拠として施策に結びついていくのかって、そういうとこをちゃん  
と見た上で設問の取舍選択をしてもらいたいっていうことですよね。

僕はこういった部分で、これは必要な設問で非常にそういうところが見えてくれば、  
だからここをやんなきゃって、強くこれを押し出していきやっぱり根拠、ベースを得  
るための調査ということにもなるというふうには思います。

ほかの方、なかったらもうちょっとだけ言うべきことだけ言うておきますと、例え  
ば皆さんは見てどうですかね、10ページの間13これは国のやつなんだけども、国  
がこういうふう聞きなさいというふうひな形までつくってるんですかね、事務局  
さん。

【事務局】

問 1 3 は国の必須項目でございます。

【委員長】

設問はそうだけでも聞き方。

【事務局】

聞き方自体はある程度こちらで変更しております。

【委員長】

だから言えるわけやね。

【事務局】

はい。

【委員長】

1 から 3 まで聞いていて 4 利用しないって書いてあるけども、ここでマルをつけた人っていうのは意味がわからないんです。だって 1 から 3 まで全部利用してないのか、それとも 1 は利用しているけども 2 と 3 は利用してないのかとか、ここに利用してないってマルをつけられてもその中身が非常にわからないですね、この聞き方だと。上で書いてないやつを改めて一つ一つ手繰って、全部紹介していただけるんだっただけでできるかもしれないけど、そんなめっちゃくちゃ面倒くさいことをしないとしたら、この利用しないっていう設問、選択肢がちょっとこういう聞き方はまずいんじゃないの。

これを聞くんだったら 1 で利用、それぞれについて利用しているで括弧して、例えば利用してる人にはこの 1 週当たり、1 カ月当たり何回って聞いて 2 では利用してな

いって、それぞれについて利用してるのか利用してないのかっていうことを聞いて、例えばもっと聞きたいんやったら全て利用してないって項目を4につけるんだったら意味が通りますけども、こういう聞き方は後で分析困ると思いますよ。

あと13ページの間22と23なんやけど、5年前もこの聞き方してるから変えるのがいいのか変えないほうがいいのか一応意見だけ言っておくと、まず間22と23、同じような聞き方をして、上のほうは参加したいと思いますか、参加したいなんだけども、23のほうが参加したいと思います、参加してみたい、これ微妙に、これこういうときって意外と後で分析するとき困っちゃったりするのね、同じように聞くべきところを選択肢っていうのはそろえておかないと、それやったら参加したい、参加したくない、合わせておかないとっていうのが1点と、本来であれば選択肢の順番が違うかな。本来だったら1、3、2の順番のはずなんですね、程度からいえば。それが1、2で突然3が出てるっていうのは、本来並べ方としてはちょっとどうなんだって。これは5年前も一緒にしてるので、できたら5年前との同じ設問にやってるんであれば、きちんと5年前と現在でどう違ってるとかっていうクロス集計はやってもらいたいので合わせるしかないなと思いますけども、本来であればそういうもんじゃないのかなというふうには思います。

とりあえず僕のほうからは以上ですが、お願いします。

#### 【E 委員】

1つだけ、私も見落としてるかもしれないですけども、保育施設の選ぶ場合、重視することっていうのが。

#### 【委員長】

何番。

**【E 委員】**

問 6 になるんですかね。新たになって書いてあるんですけど、現在も新たにを両方に共通するんですけど思いとしては、先ほども（小学校）5（年生）5（歳児）交流とか地元とかいう話があったんですけども、お母さん方の地元の園と一緒に通いたいと思われているのかどうか。特にハンデのある子どもたちにとって、小さいころから一緒にともに育つっていうことはすごく重要なことかなと私は思っていて、保育園・幼稚園で一緒に育った子がまたずっと知っていてくれる、あの人たちと一緒に小学校に入ったときに通えるっていうのが、すごく親子ともに安心かなと思うんですけど、そういうことが答えられる設問がちょっと見当たらずで。

問 6 には通園距離や立地条件っていうのはあるんですけど、またそれとも違うかなと思ひまして、その辺、私が見落とししていましたらそのあたりを聞いて、他のハンデがあるなしにかかわらず、地元に通いたいっていう御家庭がどれぐらいおられてそれを反映できるかっていうところも、草津市でもいろんな通園者を、遠いところに通園されてる方も、もちろん個人の思いでこの園に行きたいっていう選択肢ももちろんある家で、そういうところも設問に入れられるといいのかなというふうに思ひまして。

**【委員長】**

そのあたりいかがですか、事務局さん。

**【事務局】**

すみません、ちょっと確認なんですけども基本的にお子さんたち、周りのお子さんと一緒に小・中と持ち上がっていきたいというような意向ということ、同じ子どもたち、同じ友達がいる環境で持ち上がっていきたいということではないでしょうか。

**【E 委員】**

そうですね、近所、地元の子どもたち、地元の園に入園したいっていう意向のある御家庭がどれぐらいいるかと思うんですけども、今地元に行きたくてもそこはいっぱいに行けないとかいうこともあると思うんですけど、必然的に地元に行けばそのまま小・中と行くのが自然なのかなと私は思っているんですが。

**【委員長】**

そのあたりは、ですから意見を受けていただいてもう一回、次回までに検討していただけたらと。そういった地元での入園とかそういったことのニーズ。

**【E 委員】**

希望されている・・・。

**【委員長】**

希望があるのかどうかっていうのをに入れていただけたらと、そういった提案ということを受けていいの。

**【事務局】**

はい。10月にまたお答えします。

**【委員長】**

ありがとうございます。

じゃあ、ちょっと最後に。

**【F 委員】**

このアンケートの項目のどこをどうやっていうそういうお尋ねではないんですが、



私はこのアンケートをずっと説明を聞いてまして、郵送でアンケートを届けられる御家庭は郵便を受けるケースがあって、そして親もある程度それが書けてそれで返ってくるというね、しかし今日、草津でも本当に生まれてこなかったらよかったって自分で思ってしまう子どもがたくさんいるわけですね。具体的にはこの子もこの子も私たちの目にも届きませんが現実はやっぱりいると私は思いますし、幾つかの事例でも人権同和教育関係をやっています、やっぱりそれは耳によく聞くんです。

したがって、ここのアンケートの保護者には子育てについての第一義的責任は保護者にありますね。しかし、親の責任だけで済まされん環境にいる子どもがいるんですね。その子の配慮が非常に、それを支援するというように目的になってますからとっても素晴らしいことやけれども、そういった声はなかなか上がってこない。そういったところとも草津の中では子どもはいっぱい生きているわけですね。

だからそういったところを配慮したところの、アンケートしたものをどこへ入れたらそれはわからへんままに私、だからどうこうしてくださいということは申しませんが、思いとして今発言をさせてもらいました。

もう一つ言わせてもらえば13ページの、これは市長さんが私時々懇談会をさせてもらうときに市長と、先ほどもおっしゃいましたけど草津市住みやすさとかナンバーワンということは芦屋から草津に来て物すごいやっぱり素晴らしいことの一つやと思いますが、先ほどおっしゃった利便性っていう物差しが先行してるわけですね。また、はかりづらから利便性しかはかりづらと思うんです。

しかし、人とのかかわりという点で非常に苦しんでいる、悩んでいる現実があります。それも上がってこないんですよ、こういうアンケートには。どこで言うんや、どういように項目を起こしたらいいんやということを私は言わせてもらいませぬけど、これも重々今後に向けて配慮して行って、やはり住みやすさとか子育てしやすさはそういう人と人とのかかわり方っていうようなところの側面が、非常に大きいっていうことを私は申し上げて、私の思いをちょっと言わせていただきました。以上です。

**【委員長】**

ありがとうございます。もし今の御意見に何か御回答、事務局さんのほうにあれば。それも含めて検討して行って、もう一度検討していただくということになるかと思えます。

**【事務局】**

基本的な回答としては、基本検討をさせていただきたいとは思っています。

お伝えできることとしましては、子どもの貧困関係ですね、貧困だけには限らないんですけどもその件についても来年、子ども・子育て支援事業計画を策定する際にアンケートに現れにくい数字としてちょっと参考に議論をする上では、重視あるいは特別に扱わせていただきたいと思いますし、人のかかわりの点については先ほども少し触れましたが、地域子ども・子育て支援拠点事業など、子育て世帯の交流を活発にさせていく事業などにどのように反映させていくかなどを我々でも考えさせていただきますし、来年度の議論の中でも出していく上で扱わせていただきたいと思います。

大変参考になりました。ありがとうございました。

**【委員長】**

ありがとうございました。

でしたら、ちょっとこれはこれぐらいにしておいて、資料の1はほとんど設問的に重なっている部分なので、こういう内容をつけていうことを説明していただいた上で、残ったところで何か最後にあれば皆さんにお聞きしたいというふうに思います。資料1-4のほうを説明してください。

【事務局】

<資料 1 - 4 について説明>

【委員長】

基本的には、設問内容的には就学前も共通してるところがありますので全部含めてあと 10 分ぐらい、50 分ぐらいをめぐりに何か御意見とか御提案、こういうこともつていうことがあったらぜひ御意見をいただきたいんですがいかがでしょうか。

【C 委員】

もう一回、資料 1 - 3 に戻るんですけども、先ほど委員長のほうから設問の 13 のところで利用してないという選択肢についての指摘が出ましたけど、同じミナクサ☆ひろばについては問 26 でも出てると思うんですね、一番下の 15 番のところに。ここには認知状況というのが入っているんです。知らなかったというのが前の設問にはないんですけど、皆さん知っているの答えなんです。知っているものにマルって言われたときに、数字が並んでるよりも僕は空欄だけで知ってるもののマルのほうがつけやすいのかなというふうにも思いました。ですから、かなり具体的な施策なり施設なりが入っていると知っているかっていう問いが要るのかなと思います。先ほど委員長が言われた利用してないとかあるんですね、問 13 ですか、4 番に利用してないというのが。ここには知らなかったというのも可能性としてあるのかなと。だから問 26 のほうではそれが知らなかったという項目が入っている。だから、もう少し設問が重なっているからわかるんですけども、全部市のやっていることは市民に完全に行き渡っているという自信がなかったら、知らなかったという設問をつくらない意味がわからない、やっぱり知らなかったということがあり得るんじゃないかというふうにちょっと思いました。

**【委員長】**

だから、本当は問13なんかで僕なんかだったら利用しているって、知っていたけども利用してない、3で知らなかったって僕は3つつくるんだけどね、僕がやる時には。ただ、最後の知らなかったのがこの26のときにあるからいいやと僕は、今回は。要は、マルをつけてないところは知らなかったってということになるわけだから。ただマルのつけ方、ここは空欄が書く側としてつけやすいのか、こういう番号が書いてあったほうがいいのかってその点に関しては、ちょっとよく検討していただいて、ここで認知度と。だから問13と26はあわせながら見ていくとね、特にやっぱり知らないから利用できないんだっていうその部分って非常に大きいと僕は思うんで、知っていて利用しなかったらそれは自己選択の問題だけでも、利用したいのに知らんってということが問題なので。

**【C委員】**

そんなのがあったのかってというようなことがあったらということですよ。

**【委員長】**

そこら辺ちょっと、そのあたりの関連性を意識しながらちょっともう一回検討してみてください。ありがとうございます。

あと例えば自由記述のところをもしかしたらもうちょっと工夫したほうが、先ほど委員から指摘があった、そういうもっと親のその声っていうものを掘り起こしていけるようになっていうことでしたから、例えばこの自由記述のところでも単に自由に書いてくださいっていうのもあるけども、何かこういうことについて何か声なき声を拾い上げたいっていうことがあればこの自由記述のところでも、例えばこのことについて御意見お聞かせくださいみたいな形で、ちょっと括弧してこのこととこのことについてっていうふうに指定して書いてもらうという手もあるかもしれませんね。そうするこ

とで、量的には見えてこないお母さん方のそのことについての悩みとか声っていうのを自由記述で拾えるかもしれませんね、そういうこともあわせてちょっと考えてもらうといいかもしれません。

あと3分ぐらいありますけども、皆さんよろしいですか。アンケートっていうのはつくるのが8割ですからね、もうつくってしまったら後は不正がないようにありのままに分析するしかないのですね。

もし、何かあれば。

#### 【G 委員】

すごくしょうもないことなんですけれども、1-3の、やっぱり他にもなんですけど、8ページからある間9-1とかそこから先全部なんですけど日数のところに括弧に数字を記入とわざわざ書いているんですけど、括弧は要らないんじゃないかなと思いついて、すごくここに数字を入れるってわかっているのにわざわざ括弧を入れる必要があるのかなと思いついて、あと何泊っていうとことか全てここ括弧特に要らないんじゃないかなと思ったので、箱があるので何日とか、箱があるところは要らないんじゃないかなと思いつきました。

#### 【委員長】

ということで御検討ください。ありがとうございました。

ほかの方、大体他の方の意見に同意していただくということでもいいんですが、大体よろしいでしょうか。いろいろ意見出てきたので、それをもう一回含めて事務局のほうでも、でもやっぱりここは絶対入れておきたいというそういう思いもあるでしょうから、それをもう一度同じ土俵に上げてそれでもう一回取捨選択をしながら最終的な案を、だから次回お示しいただけるということですよ。

ということでいろいろと意見いただきました。それを事務局のほうにも聞いてい

ただいたので、それをちょっと検討していただいて次回修正案というものを提出していただくということにしたいと思います。それでは御意見、質問ございませんようでしたら、本日のところはこのあたりで議事を終わらせていただきます。いろいろと貴重な御意見いただきまして、ありがとうございました。この審議を踏まえて、事務局で必要な修正を行っていただきたいというふうに思います。

### 3. 閉会

---

#### 【山本子ども家庭部副部長】

本日も長時間にわたりまして、いろいろと御協議いただきましてありがとうございました。

どこの市町におきましても子ども・子育て支援事業計画について取り組んでいるところではございますが、国の指針がちょっと遅かった関係で十分な、今日御審議いただける調査項目になってなかったところは大変申し訳ございません。

今日いろいろいただきました御意見と、あと国の指針をもう一度確認させていただいた中で多くの方が回答いただけるようなニーズ調査のものになるように、こちらのほうとしても次のときには資料のほうを、また調査になるように資料のほうをそろえさせていただいて、また御協議いただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いたします。本日はどうもありがとうございました。